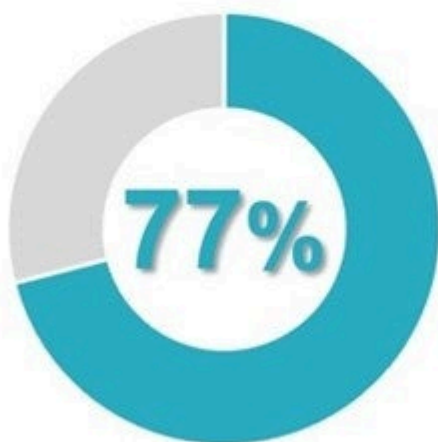


「洗ったあとのつっぱり」には理由があった！ ファンケル、クレンジングによる乾燥の新事実を発見

株式会社ファンケルは、日常的に行われるクレンジングが肌に与える影響について研究を進め、肌の乾燥やつっぱり感の一因として、クレンジング剤に含まれる洗浄成分が角層内に過剰に入り込む「洗浄成分の過浸入」が関係していることを見出しました。

近年、肌への負担を軽減する「摩擦レス洗顔・クレンジング」への関心が高まっている中、当社が20代～60代の女性984人を対象に実施した調査（2025年／インターネット調査）では、77%が「クレンジング時に必要なうるおいまで奪われてつっぱらないか不安に感じる」という乾燥による肌負担が気になると回答しました。

クレンジング購入時、
必要なうるおいまで奪われて
つっぱらないか不安に感じる



出典：ファンケル調べ N=984（2025年）

この結果から、“こすらない”だけでは防ぎきれない肌への不安が、依然として多くの女性の間には存在していることが明らかになりました。

こうした背景を受け当社は、肌のうるおいを守る「バリア機能」に対して洗浄成分がどう影響するのかを検証。その中で洗浄成分の「分子サイズ」に着目しました。

【約3倍サイズの洗浄成分で、バリア機能維持を確認】

当社は、肌のうるおいを守るためには、洗浄成分が角層の奥まで浸入しすぎないことが重要と考え、一般的な洗浄成分の約3倍サイズとなる独自設計の洗浄成分を開発。角層への影響を確認しました。



【洗浄成分の分子サイズが、角層への影響を大きく左右】

肌表面の角層はわずか約0.02mm、食品用ラップとほぼ同じ薄さです。当社はこの角層をさらに1 μ m単位で詳細に解析し、洗浄成分がどこまで浸入するかを検証しました。

その結果、分子サイズによって角層への浸入の度合いに大きな違いがあることを確認しました。

**わずか0.02mmの角層を、1 μ m（ラップの厚さの1/10以下）ごとに
洗浄成分の影響を、角層を一層ずつストイックに検証**

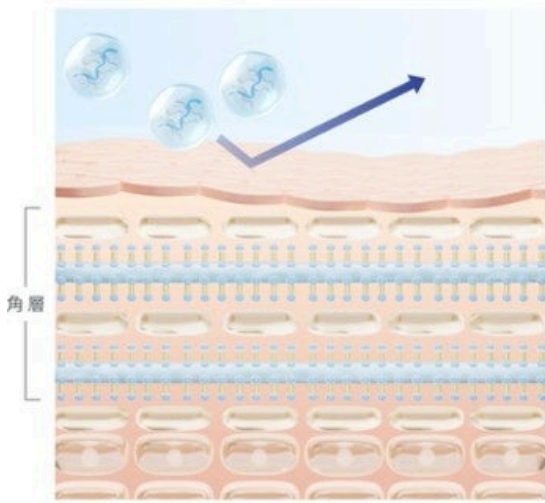


※各角層内部の洗浄成分の検出量をクレンジングの前後で比較したときの変化量

特に、分子サイズの小さい洗浄成分は角層の奥まで浸入しやすく、肌のバリア機能に影響を与えてしまう可能性が示されました。これが、クレンジング後の乾燥やつっぱり感の一因と考えられます。

洗浄成分が大きい場合

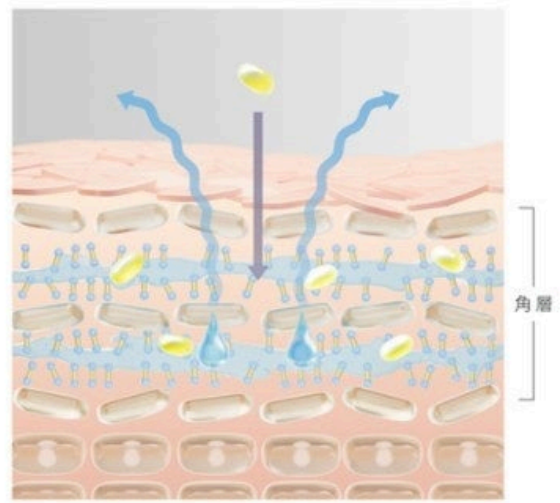
角層深部に浸入しにくい



洗浄成分が浸入しにくいため
バリア機能に影響を与えにくい

洗浄成分が小さい場合

角層深部に浸入してしまう



洗浄成分の浸入によって
バリア機能に影響を与えてしまう

以上より、大きい分子サイズの洗浄成分は、メイク汚れがある肌表面にとどまり、角層深部には浸入しないことを実証しました。

つまり、大きい分子サイズの洗浄成分は、肌のバリア機能に影響を与えにくいと考えられます。

【肌を守りながら、瞬時に落とす。独自技術「セレクトクレンジテクノロジー」を確立】

当社はこの知見をもとに、さらに高い洗浄力を実現する研究を重ねてきました。その結果、落ちにくいメイクの被膜成分をすばやく溶かす仕組みや、毛穴の角栓をやわらかくして落としやすくする方法を見出しました。

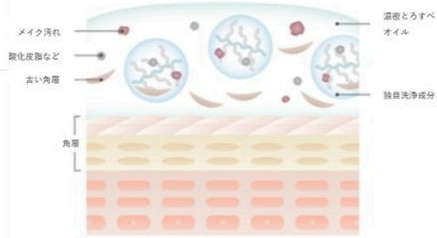
これにより、肌のバリア機能に影響を与えずに、こすらずにメイク汚れとすばやくなじんで落とす「瞬時に落ちる高いクレンジング力」と、「確実な角栓ケア」を両立する独自の洗浄技術「セレクトクレンジテクノロジー」を確立しました。本技術は2026年4月発売の新製品にも応用しています。

当社は今後も、「何を与えるか」と同時に「何を与えないか」という視点から、肌に不要なストレスをかけないスキンケア研究を進めてまいります。

01

角層に浸入することなく 表面の不要な汚れを絡めとる

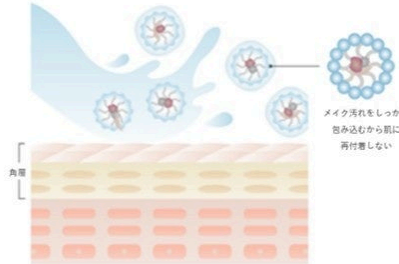
クッション性があり肌にすーっと伸びる
“濃密とろすべオイル”と、角層深部に
浸入せず、うるおいを奪わない
“独自洗浄成分”がメイク汚れにアプローチ



02

瞬間乳化でこすらずするん

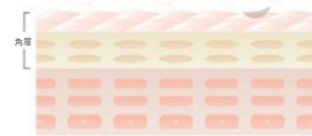
すぐ水に触れると、
瞬時に乳化してメイク汚れを包み込み、
微細な粒子となって流れ落ちる。



03

“うるすべ素肌”に 洗い上げる

メイク汚れは瞬時にオフ。
うるおいを奪わず
乾燥・ツッパリ感なし



※図はイメージ